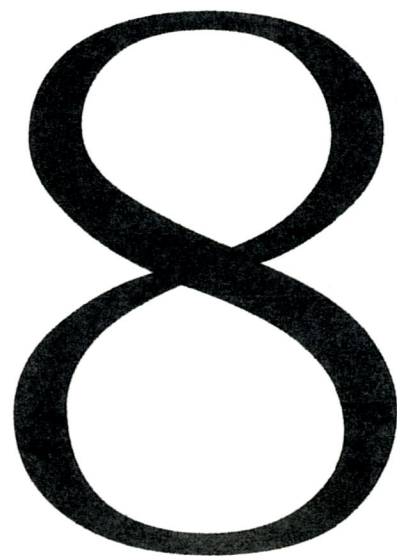


Aブロック全作品と講評

はち





ボン
ツ

キュ
ツ

ボン
ツ

「理想のボディ」

右に六十歩。毎十歩。田無五十歩。ス。
 見つけしところから。一歩。二歩。三歩。四歩。五歩。六歩。七歩。八歩。九歩。十歩。十一歩。十二歩。十三歩。十四歩。十五歩。十六歩。十七歩。十八歩。十九歩。二十歩。二十一歩。二十二歩。二十三歩。二十四歩。二十五歩。二十六歩。二十七歩。二十八歩。二十九歩。三十歩。三十一歩。三十二歩。三十三歩。三十四歩。三十五歩。三十六歩。三十七歩。三十八歩。三十九歩。四十歩。四十一歩。四十二歩。四十三歩。四十四歩。四十五歩。四十六歩。四十七歩。四十八歩。四十九歩。五十歩。五十一歩。五十二歩。五十三歩。五十四歩。五十五歩。五十六歩。五十七歩。五十八歩。五十九歩。六十歩。

『八の字ダンス』

ミツバチはコミュニケーションの手段として、仲間に発見した
 花の場所を伝える「八の字ダンス」を使う。8の向きで巣箱から
 の方角、踊る速さで距離を表す。

八 八 八

「はちみつ」

八月

十一日

今日も

まだ植木鉢から芽はでてきていない

昨日の夜

種をほじくりかえしたせいだろうか

昨日の朝

水をやるのをわすれたせいだろうか

一昨日

肥料をたくさんあげたせいだろうか

もう種をまいてから一週間たつのに芽が生えない

なんで

僕の植木鉢だけ芽が出ないんだろ

そもそも

なんでこんな宿題を先生は出すんだ

夏休みに

朝顔を育てることがそんなに大事か

今さら

文句を言っても仕方がないんだけど

ああ

出ない

8とかけまして

約束に遅刻してきた二宮ととく

その心は、

『ニノ、サンジヨウ』

僕には8年間ずっと好きな人がいる。僕が中学1年のころ、2つ年上の先輩だった彼女に恋をした。先輩とは部活が同じで帰る方向も同じだったから練習の後はいつも一緒に帰った。部活の練習の話だったり、学校の先生の愚痴だったり、何気ない会話だったけど大切な時間だった。夏が始まって先輩がもう直ぐ部活を引退するころ、僕は先輩に恋愛相談をされた。恋愛相談をされるくらい仲良くなれたことは嬉しかったけれど、それ以上に先輩の好きな人になれなかった事実が僕の心をえぐった。それでも僕は先輩の恋を応援することにした。そうすることで自分の傷口をふさいでいける気がして。

8月になって先輩はついに告白すると僕に告げた。その告白が失敗しても自分が先輩の彼氏になれるわけではないのは分かっていたけれど、成功を祈ることはできなかった。告白の日、僕は正門で先輩を待った。別に頼まれたわけでもなく、自分に何かできると思ったわけでもなく、ただ自分は見届けるべきだと思ったから。少し下を向いて先輩が校舎か

ら出て来た時、結果は理解できた。いつもの道を2人で何も話さず帰った。先輩との距離をいつもより一歩縮めて歩く事が僕のできる精一杯だった。最後の分かれ道、先輩はありがとう、と涙を流して笑った。

僕は二十歳になった。この8年間ずっと先輩の背中を追いかけて来た。高校も大学も担任に無理だと言われども、一生懸命勉強して先輩のいるところに受かった。先輩と同じ学校に通えない年は、関係が切れないように定期的に連絡をした。僕は8年間伝えられずにいたこの思いを伝えるために先輩を夏祭りに誘った。僕たちは出会ってからの出来事を語り合いながら祭りを楽しんだ。あの頃の帰り道みたいに何気ない話で笑いあった。夏祭りも終わりに近づいてきて、花火が上がり始めた。僕は告白する決心をした。始めは声にならなかったけど、僕はやっとの思いで8番目の花火が上がるのと同時に思いを伝えた。

壇ノ浦オリンピック

義経、走り幅跳びで6メートルの新記録を
達成し金メダル！！

義経の八艘飛び

あるところに数字たちの世界がありました。そこでは数字の大きさによってすべての物事が決められていました……。

8「うっ、もうやめな……」

114「うっせえーさっさとバンコクへ来いよー」

514「そっだそっだー俺様のガトーシヨ」いつまで待たせるんだよー」

8「僕もスイーツを買ってくるお金がないんだよ……」

514「お前、もしかして俺様に口答えする気か？ああんー？」

114「おら、兄貴の鉄拳制裁くらいたくなかったら親の金財布から抜きとってでも買ってくるんだなーさやばはははー」

514「いいか、十分後までに買ってこなかったらどうなるかわかってるんだろなー？さっさと行けー」

そう言って514は8の肩を思いっきり押しました。8はたまらずその場で横に倒れてしまいました。その刹那……。

「コッコッコッコッコッコッコッコッ……」

514「な、何が起ってるんだー？このフッシャーは……っ？」

114「あ、兄貴……もしかしてあれ……」

8「今までは我慢してきましたけど、もう怒ったぞー」

114「ひっ、ひいっー」

514「ど、どうもすみませんでしたー」

こうして、8が倒れて無限大になったことにより、値が大きくなったので、114と514という二人の子悪党はとっちめられました。その後、8を絶対に怒らせてはいけないという噂が国中に流れましたとさ。

・・・・ピピピピッ　ピピピピッ

カチッ

「・・・あと10分で布団から出よう」

〽1分後〽

「・・・あと9分後でも間に合う」

〽1分後〽

「・・・あと8分後に・・・」　バタッ

「・・・あと∞分・・・だけ・・・zzz」

〽n分後〽 ($n > 60$)

「ワッツハッブン!？」

「一等賞です！おめでとうございます！」

閑静な住宅街に鳴り響くベルの音。振り返る通行人の視線の先にはジャージを着て寝癖も直していない僕。最悪だ、めでたくもない。これが僕の先ず一番の感想であった。比較的過ごしやすかった春はとうの昔に過ぎ去り、今は初夏。夏本番とまではいかなために家ではエアコンがかけられることもなく、じめじめとした気候の中でひたすらに暑さに耐えなくてはならない最悪の季節である。そんな最悪な季節に、母からの最悪な命令が下った。おつかいである。店の中はエアコンが効いていて涼しくおつかいも悪くない……なんて思っていた僕であったが、そのすぐあと考えを改めた。僕にはまだ屋外で商店街のくじを引くという使命が待っていたのである。重い買い物袋を持ちながら炎天下でくじの順番を待っているのは、さながら地獄である。そんな僕に更なる悪夢が待っていた。

そう。くじの一等賞が当たってしまったのである。一等賞が当たることは別にそこまでする悪くない。むしろ並んだかがあるというものだ。しかし問題は服装である。日頃は少しオシャレにも気を遣っているつもりでいるが、休日まで気を遣う必要はなからうと最悪の格好で外出した今日に限って目立ってしまった。そしてそんな時に限って、ろくに話したこともない同級生の女子に出会ってしまうとは。

恥ずかしさを抑え込み、一等賞の商品を受け取ろうと片手を差し出す。商品券か旅行券か何かであろう。しかしおもむろに大きなものを取り出して、くじ係のお姉さんはこう言うのである。

「一等賞の植木鉢です！」

ただでさえ、重い荷物を持っている僕にこの人はいったい何をそんなに笑顔で言っているのか。理解に苦しむ。まさにこういうことを泣きつ面に峰、なんて言うのだろうか。そう思いながら植木鉢を両手で抱え振り向いた瞬間、同級生は僕の目の前にいた。

驚いている僕の前で植木鉢に何かを投げ入れ、

「花言葉。私はあなただけを見つめる。」

そう言つて立ち去っていった。家へ帰つてみると、ヒマワリの種が入っていた。種を喜ぶ母から土を買うようにとの最悪の命令が再び下り外へ出た。最悪だ、あの子が種さえ寄越さなければ良かったのに、と思う僕の後ろから少しづつ夏が近づいていた。

夏はすぐそこだ。

「夏に咲く花」

七転び八起きなんかより

七転八倒の方がいい

無理に起き上がらなくたって

君の可能性は無限大

八月の最後の日曜日

夏休み中、ずっとこの日を待ち焦がれていた
みんなで行く花火大会

でも、今日は特別な花火大会

今日のために買った、あの人が好きな水色のゆかた
髪型も、あの人が好きなポニーテール
なんだか少し照れくさい

久しぶりに見るみんなの姿

夏休みの部活ですっかり黒くなっていた

しかし、どうやら彼はまだ来ていないみたいだ

ドキドキしながら待つも、一向に来る気配がない
もう始まるから行こう、と声がかかる

大きな花火が次々とあがる

周りのみんなは花火に目を奪われている

きれいな花火だ

できることなら、この花火をあなたと

花火大会も終わりに近づいてきた

すると、息を切らしながら走ってくる人影が見えた

その人影は私の隣で立ち止まって言った

『間に合った！』

そして、最後の花火があがった

彼は私の方を向くと

『今日のゆかた似合うね』

と顔を赤らめながら呟いた

『ちょっと待ってて！』

そう言うと、私にりんご飴を買ってきて、渡しながら呟いた

『来年は最初から一緒に見たいなあ』

一口かじったりんご飴は甘酸っぱい味がした

コンテスト結果

[Aの部]

コ ラ ム 番 号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	理想のボディ	13 pt	3 位	3 sp
		じーっと見ていたら、だんだんそう見えて来るかもね、な今週のインパクト表紙でした。 激戦のインパクト戦線をくぐりぬけ、最多特別賞&ブロンズ・メダルです。おめでとう!! マイクコメントもキマってましたね。 特別賞：ビューティー賞（書記の好み） そうで賞（ですよねー。） 理想のボディ賞（ボンキュッ ボンだから） イチオシフレーズ：「ボンキュッ ボン」×3		
A02	八の字ダンス	4 pt	8 位	0 sp
		八の字ダンスが意味するものをしっかりレイアウトにして、ミツバチの気分誘ってくれます。 解説とのバランスもうまくとれていて、知識と気分の両方が伝わってきて好印象。		
A03	はちみつ	3 pt	10 位	2 sp
		のほほんと、みつ。なるほどね。 脱力系コラムでした。 特別賞：手抜きギリギリ賞（シンプルでいいと思った。手抜きギリギリやぞ。） おやじギャグで賞(おやじギャグだから)		
A04	無題（朝顔）	14 pt	2 位	1 sp
		いや八月十一日に双葉じゃ、どちらにしても手遅れなんじゃ？ と心配になる小学生。レイアウトでくっきり焦りをかたどってインパクト大。 どうして僕だけ？ 誰しもある苦い記憶にヒットしてシルバーメダルの支持をいただけました。おめでとう!! 特別賞：出るで賞（最後の文「出ない」って書いてるのに出てるよ）		
A05	ニノ、サンジョウ	18 pt	1 位	2 sp
		おー、うまいこと言った！ さくっと言われたら、笑って許してしまいそう。 シンプルイズ ベストをそのまま体現した仕上がりで、みごとゴールドメダルです、おめでとう!!! 特別賞：おいしいで賞（ギリギリで順位にくいこまなから。） 笹尾賞（笹尾氏が気に入ったから） イチオシフレーズ：「ニノ、サンジョウ」×2		
A06	8 番目の花火	3 pt	10 位	0 sp
		とても王道な片思いストーリー。 これだけ強く思い続けたんだから実るよね！ という読者の応援気分も味方に引き込んでハッピーエンド（ですよね！）まで連れて行っていただきました。		

A07	義経の八艘飛び	5 pt	7 位	1 sp
		いや、この発想は無かった！八艘も飛躍した作者さんの跳躍力にびっくりです。 特別賞：金メダルとれない賞（中学生でもすごいやつ、そんぐらいとぶよ）		
A08	8 の逆襲	9 pt	4 位	3 sp
		8→∞ネタは山ほど出ました、当然。 しかし、これは段違いにおもしろい。ゴゴゴゴゴと天地が引っ繰り返って大逆転が起こるところ、まさに痛快。グッジョブ。 特別賞：∞の賞（8、9、11同時受賞）（無限な∞ネタ） ああ〜いいで賞（1 1 4 5 1 4） 汚いで賞（1 1 4 5 1 4 が、ね。）		
A09	眠さの極限	9 pt	4 位	0 sp
		ワッツハッブン!? そうなるよね。 誰しも経験する落とし穴を、しっかり再現いただきました。気を付けよう、そうしよう。 ワッツハッブン!? インパクトフレーズがみんなの頭にこだまして、みごとイチオシフレーズ大賞です。おめでとう！ 特別賞：∞の賞（8、9、11同時受賞）（無限な∞ネタ） イチオシフレーズ：「ワッツハッブン!」×7		
A10	夏に咲く花	2 pt	12 位	3 sp
		こまやかな描写で、日常の手触りがまるごと伝わってきます。実話か？と思うくらいのリアリティでした。 単に日常に浸りきるのではなく、夏の恋の予感をほのかに香らせた終わり方が、いい余韻。 「一等賞」をいっぱいもらえて最多特別賞です、おめでとう！ 特別賞：いっとう賞（うえきばち） 一等賞（一等賞だから。おめでとう!!） 一等賞(本文に一等賞があったから) イチオシフレーズ：「泣きっ面に蜂」「一等賞の植木鉢です！」		
A11	無題（可能性は無限大）	6 pt	6 位	0 sp
		ふつう七転八倒は嫌われるのに、寝てるほうがいいさ、と逆転したところがユニーク。たしかに「8」の気持ちならそうかも。 特別賞：∞の賞（8、9、11同時受賞）（無限な∞ネタ） イチオシフレーズ：「君の可能性は無限大」		
A12	花火	4 pt	8 位	0 sp
		最後に輝けたから、待っても嬉しい。乙女心全開です。夏の恋の甘いかたちを照れずにつくりあげて、読み手に幸せ気分を運んでいただきました。		

[Bの部]

コ ラ ム 番 号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
		11 pt	4 位	2 sp

B01	自己ベストの更新	わーわーわー。小学校の運動会の元気なかけっこの声が聞こえてきそうな、コミカルでほほえましいワンシーンです。 特別賞：自己最高記録賞 佳作賞（秀逸性は感じないがおもしろかった） イチオシフレーズ：「蜂『おっ！ワイも応援するでー』」
B02	泣きっ面に蜂	1 pt10 位0 sp 三種類の「鉢」をバランス良く盛り合わせていただきました。 リズムも良く、ユーモラスな光景がぼよよんと浮かんできます。
B03	渋谷の中心で、ハチ公が語る	12 pt3 位1 sp 感動のハチ公ストーリーかと思いきや。 油断してたら銅像にされちゃったよ、ったく。みんな 気い付けろんだぞ、と愚痴るけなげな姿が、とても チャーミングでした。 その銅像さんの首にブロンズメダルをかけてあげましょ う。おめでとう！ 特別賞：鈍感も悪くないで賞（忠犬ハチ公、かわい い。） イチオシフレーズ：「とんでもない鈍感」「お通夜とか いうナイトパーティ」「何かやけに視線が高い」
B04	先輩は3割、僕は・・・。	7 pt8 位2 sp 人は環境によって変わる。そういうことですね。まわり くどい理詰めな先輩の口説き文句が秀逸。 イチオシフレーズ大賞に輝いた「な？」のダメ押しには 逆らえそうもありません。 まさかの実話！おしあわせに。 特別賞：同性愛賞（そのまま） ファッションホモ賞（ガ チホモではないと信じたい） イチオシフレーズ：「な？」×5
B05	iPhone 8	0 pt11 位1 sp 昔懐かし10円玉電話。集めれば龍が召喚できるのか。 な、な、なんだってー。 ノリよい部長さんがいい味でコントを引っ張ってくれま した。 特別賞：ドラゴンボール賞（ドラゴンボールっぽいと思 った） イチオシフレーズ：「ふははははははは！そうはさせる か！」×2
B06	八紘一字という言葉を見て	0 pt11 位3 sp 文系ヴァージョンvs理系ヴァージョンといった趣向だっ たでしょうか。後半のほうが圧倒的におもしろいので、 そちらをたっぷり聴かせてほしかった感。 それでもみんながんばって読んで考えてくれて最多特別 賞です、おめでとう！ 特別賞：病院に行きま賞（1度、担当医に相談した方がい い。） 難しいで賞（理解するのが難しかったです。） 意 味不明で賞(本当に意味不明) イチオシフレーズ：「ジャスティフィケーションオブカ オス」

B07	根付く	8 pt	7 位	0 sp
		ふつうは「寝付く」と嫌われる鉢植え。そこを敢えて運命に抗おうとした情景に、君への想いの深さを読みました。千日紅の花言葉は変わらぬ愛、だそうな。		
B08	小さな8分間の戦いに全てを懸けた男	14 pt	1 位	1 sp
		小さなスキマ時間に、いかにたくさんのシゴトを詰め込めるか。その効率フリークさんの意気込みがふつつと伝わってきて、おーここまで詰め込めたか、あっぱれあっぱれと応援していると、まさかのブレーカーオチ。あざやかでした。 おめでとうゴールドメダル!!! 特別賞：オチ賞（ブレーカーだけにね!!）		
B09	はにかむっ！～なかよし公演第三コロニーの日常～	11 pt	4 位	1 sp
		これは、どんどん連載が続いて欲しい楽しさだなあ。1エピソードずつ、ちゃんとオチも付いていて完成度の高い蜜蜂くんたちの、はにかむ日常でした。 特別賞：花粉賞（落ちがいいと思います。） イチオシフレーズ：「ワシな、二週間前から花粉症やねん」		
B10	蜜蜂	3 pt	9 位	1 sp
		愛ゆえの毒針、でしょうか。これで私も世を去ります、と。 さくりと心に残るフレーズとレイアウトでした。 特別賞：いいで賞（かっこよかったから） イチオシフレーズ：「八千代の別れの置き土産」		
B11	八本の薔薇を貴方に言葉にはすることのない愛を隠して	9 pt	6 位	0 sp
		花言葉に託した願い。それは決して叶うことはなく、それどころか嫁いでゆく先輩に伝えることすら叶わない。むしろ、敢えて伝えないことが最後の心づかい。よい設定ですね～。あからさまに語らない「僕」への共感もあいまって、とても絵になるドラマシーンでした。		
B12	来る八月へ捧ぐ天色の唄	14 pt	1 位	3 sp
		古風な文体で夏の情景が、くっきり縁取られます。眩しい向日葵から、夜の花火まで。ていねいに紡がれた言葉たちから、夏への期待が伝わってきます。しっとり系の地味な作品は上へ上がりにくいのですが、しっかり評価をもらえてゴールドメダル&最多特別賞です、おめでとう!!! 特別賞：夏休みや……賞（八月や……） 夏色賞（どこか懐かしさを憶えるようなあわい言葉遣いがぐっとくる。書記一推しの作品） きれいで賞（日本語がキレイ） イチオシフレーズ：「夏の夜空に溶けてゆく」		